

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691100026
法人名	サンシップ株式会社
事業所名	ケアホーム橋下条テラス
所在地	富山県射水市橋下条 8 5 0 - 1
自己評価作成日	令和2年8月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年8月28日	評価結果市町村受理日	令和2年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念である「思いやりの対応」「住み慣れた地域での生活」「気楽で安心な毎日」を実践に活かせるよう各職員が意識を持って日々のケアに当たっています。グループホーム単体でなく、併設するデイ・小規模・安心アパートと合同で行事を行い、賑やかで活気があり、職員・利用者様共々楽しんで過ごしています。また近所の小学生との交流や地域のボランティアの慰問など、地域とのつながりを大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所が開所して約13年になるが、当初から勤務している職員がほとんどで離職率が低い事業所である。離職率が低いことは、介護の人材不足が叫ばれる今日において、働きやすい職場と推察できる。利用者のより良い介護の実践においては、職員自身も仕事にやりがいや働き甲斐を感じる職場環境であることが大事とのホーム長の考えのもとに、今年度は「優しい言葉と皆の笑顔。かかえこまずにまず相談。一人じゃないよ手を貸すよ」と標語が掲げられ、職員同士の助け合い・支え合いが感じられる。関わる人たちとのつながりをとても大切にしながら、利用者一人ひとりの思いに添える介護を目指して“できない”という前に、可能な限り実現に向け考え、取組み、利用者が満足する生活に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「思いやりの対応」「思いやりの心」「住み慣れた地域での生活」「気楽で安心な毎日」をもとに、より良いケアが行えるよう実践に努めている。	地域の中の福祉施設という基本理念に基づき、事業所としての理念を定め、利用者の思いに添えるケアに努めている。全体ミーティングで理念の確認を行い、全職員の理解を深める機会になっている。また、接遇委員会が中心となり、日頃のケアの振り返りや改善を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルスの関係もあり、交流はほとんど出来ていないが、以前はカニ鍋、納涼祭など地域の方を招待し、地域の方と交流を図っていた。	ホームにおいて法話会・介護教室・カニ鍋祭りなどを開いて、地域の人たちの参加を呼びかけたり、地域の納涼祭には、開催の準備やテナントを設けて参加したり、地域の運動会、小学校の運動会などに招待されたりするなど盛んに交流が行われている。自治会にも加入し、日頃から暖かい関係性が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一回、介護教室を地域や利用者家族に対して開催しており、認知症だけに留まらず、介護に関わる様々な事に対し、情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の行事報告を行い、民生委員、地区自治会長、包括支援センター職員から意見や助言、指摘をいただきサービスの向上を目指していたが、現在はコロナウイルスの影響もあり書類(アンケート自由記載が行える用紙)を送付し対応を行っている。	現在は、新型コロナの影響を受けて書類決裁で行われているが、意見・要望がフィードバックされるアンケート方式を取っている。今までに、推進会議の委員から、職員の名前と顔の判別が分かるような方法を求められたり、標語のフレーズの見直しや地域の防災訓練等の参加呼びかけなどの意見・要望があり、それに応じて改善されている。	家族の参加を促すための取組みとして、会議開催意義につなげる議事録の配布や参加しやすい運営の工夫などに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターとの関係性は、出来ている。以前は困難事例などを通し、様々な助言をいただいていた。	市担当者とは、制度や運営に関する相談や助言を受けたり、水害等防災に対する助言を受けたりするなど気軽に相談できる関係が築かれている。また、行政派遣のあったか相談員の来訪もあり、ホームの実情や取組み等に行政の理解が得られており、協力的な対応を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在10時から16時までは、施錠を行わず出入りなどは、自由に行える状態である。言葉がけによる身体拘束や行動抑制を行っていないか、日々の振り返りを行ない、ケアを行っている。	運営推進委員会に引き続いて身体拘束廃止委員会が開催され、日頃の関わり方について振り返り検討している。また、虐待防止委員会では、定期的に法人全体の業務を見直し、不適切な対応に対する改善策の検討や、アンケートによる職員一人ひとりの振り返りの実施、外部・内部研修の参加などにより、身体拘束の弊害等について理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員が主となり、定期的に委員会を開き、身体拘束廃止、虐待防止に対して働きかけている。また運営推進会議にて、その都度虐待が無かった事を発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人情報保護、プライバシー委員が主となり内部研修を定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者さんや家族の方には、契約の締結・解約・改定時等、必要に応じ、十分な説明を行っている。不安や疑問にも理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置し、施設に対しての意見などを自由に記載出来るよう対応している。また定期的に家族の方、利用者さんに対してアンケートを行い、ミーティングや運営推進会議で発表している。	家族の来所時の機会に、要望等を聴き取り、必要な改善に繋げている。さらに、意見・要望の把握のため、家族アンケートを実施し、記載内容を全体ミーティングで職員に周知している。家族からの感謝や褒め言葉は、職員にとってモチベーションにつながると思われ必ず伝達している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より管理者は、職員の意見・要望の聞き取りを定期的に行っており、その要望を代表者に伝え反映させている。	ホーム長・管理者・職員との関係性は良好で、日頃の雑談においても意見や要望が気軽に話せる関係性が築かれている。提案された意見・要望は、ホーム長中心に管理者、ケアリーダーと検討し、改善に向けている。内容によっては代表者とともに検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生の充実には、力を入れており有給休暇の取りやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が主となり、各職員のスキルアップのため、施設外研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員同士の交流などは無いが、管理者や代表者は、同業者との交流は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在は、困っている事や不安な事など自身で表現できなくなっている利用者さんが、ほとんどであるが、日々の関わりの中で本人の不安な事や困りごとなどは、汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では、家族さんとの連絡を密にし、不安な事や要望などに対して、対応出来るよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人との話し合いで本人の想いや、家族の要望などを聴き、どのような支援が本人にとって良いのかを職員と検討を行い、サービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全利用者さんではないが、食事準備や日常の家事仕事などを協力して行い、感謝の意を伝える事で、共に生活する関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全利用者さんではないが、定期的な外出依頼や、外泊など家族との時間を過ごして頂き、関係性が途切れないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員同行のもと、定期的に自宅へ一時帰宅し近所の方と会話を楽しんだり、お茶を飲んだり、馴染みの場所との関係が途切れないよう努めている。	自宅に帰りたい利用者の思いに添うため、数時間の自宅滞在に付き添ったり、同法人運営の小規模デイを利用する知人とお茶会で交流したり、いつも楽しみにしていた馴染みの祭りに出かけたりするなど、住み慣れた地域との関係性が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介し、利用者さん同士が関わりやすいよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、相談の連絡があれば対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式(C-1-2)を使用し、本人の思いなどが反映出来るよう努めている。また日々のケアでの気づきなどは職員間で共有し、本人の意向に沿えるよう努めている。	利用者との会話や表情など、日々の関わりから把握した利用者の思いや意向は、職員間のメッセージアプリで情報共有している。さらに必要な情報はセンター方式シートを使い記録するなど、可能な限り思いに添えるように職員間で話し合い支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族の方から生活歴、サービス利用までの経過など詳しく情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、変化があれば職員間で情報を共有し、利用者さんの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設介護計画は定期的に見直しを行い、状態変化等があれば、その都度家族を交え検討している。また家族さんと連絡を密に要望をもらい、利用者さんがより良く生活出来るよう支援に努め、現状に即した介護計画作成に努めている。	センター方式シートに記録された本人の思いや意向を反映させながら、6ヶ月ごとに再アセスメントを行い介護計画を見直している。また、3ヶ月ごとのモニタリングの実施やサービス担当者会議の開催など職員の意見を集約し、現状に即した介護計画作成に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録だけでなく、気づきなどは職員間のメッセージアプリに記載して情報共有を行い、日々のケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の想いなどに対しては、柔軟に対応できるよう日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナウイルスの影響もあり外部との交流などはないが、近隣の小学生との交流やボランティアの慰問など楽しみある生活を送れるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームには嘱託医がいるが、入所時に本人及び家族に希望のかかりつけ医を決めてもらい同行受診し、情報提供を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	入所時に希望のかかりつけ医を決めて受診に備えている。嘱託医の往診は月1回の他に、看護師・薬剤師の訪問による健康管理が月1回行われている。嘱託医以外の受診は家族同行であるが、症状の説明等が必要なときは職員が付添っている。夜間の緊急時は、ホーム長の判断により救急車対応で迅速に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや関わりの中で異常があれば報告し、適切な医療、看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などは、地域連携室と連絡を密にし、退院に向けての話し合いなどを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設側として出来る事、出来ない事を十分に説明をしている。また重度化・終末期ケア対応の指針を明記した同意書を渡し、同意して頂いている。重度化した場合などは、家族、主治医を交え、今後の対応について、その都度話し合いを行っている。	医療体制がとれないため、基本的に看取りは実施しない方針であるが、ホームでできること、できないことの説明と必要に応じて医師を交えて話し合い、可能な限りホームでの生活が継続できるよう支援している。家族には、入所時に重度化・終末期ケア対応指針を示して同意をもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に消防の救急救命訓練に参加し、適切な対応が行えるよう訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春の防災訓練は、コロナウイルスの影響もあり、机上訓練を行った。本来は年2回、春には、消防署員を招き、火災訓練・無断離脱訓練を行い、秋には、地震想定で、第一次避難場所までの誘導などを行っている。水害に対しては、水害対策計画書を市役所に提出しており射水市と連携している。	法定で定められた年2回の火災訓練のほか、地震災害避難訓練を実施し、地域の第1次避難場所まで移動、掛った時間の計測等も行っている。また、利用者の無断外出捜索訓練も行い有事に備えている。水害の避難訓練は実践されていないが、水害対策計画書は市役所に提出し、近くの河川氾濫危険に備えている。	地域の防災訓練に参加することにより、一層ホームの理解や関係性が深まり、災害時の協力体制が強まることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員が外部研修で得た情報を定期的に内部研修にて報告、情報共有し、日々利用者の方々に対する接し方などの振り返りなども定期的に行っている。虐待防止委員は定期的に委員会を開き、今年度の標語をフロアに貼り出し周知している。	個人情報・プライバシー委員会が中心になって、外部研修の伝達講習や内部研修を行っている。利用者の情報はメッセージアプリを使って全体共有しているが、委員会が定期的に個人情報の削除を行いプライバシー確保に配慮している。また、日頃特に、排泄時・入浴時の声かけ、介助に留意し、プライバシーや羞恥心を損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が行える方には、本人の意志を尊重し過ぎて頂けるよう努めている。自己決定が難しい利用者さんに対しては、選択肢を設け選んでもらうなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に過ごしていただけるよう努めているが、自身で希望や要望などを言えない方などは、日々職員で検討を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意を大切にしながらも、季節や目的に合わせて職員と共に洋服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で食材切りや野菜の芽取りなどを職員と共に行っている。ブレンダーで利用者さんと共に野菜作りを行い、出来た野菜を収穫し食事時に提供している。またバイキングやバーベキュー、青空ランチ、蟹鍋など楽しみながら食事を摂れるよう努めている。	献立・食材は業者委託で調達し、調理は利用者とともに職員が行っている。週2～3回、昼食の献立を利用者から聴き取った食べたい物にし、食事を楽しんでいる。また、近隣からもらった食材で副食を増やしたり、正月、花見、誕生会などの行事においては特別なメニューやおやつを用意し、満足につながる食事になるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの嚥下状態に合わせて、食事形態を変えたり、十分な水分量をあまり摂取できない方に対しては、ゼリーを提供したりするなどの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で口腔ケア行えない方などに対しては、ウエットティッシュやスポンジを使用し、口腔内の衛生環境保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ライフチャートを使用し、定期的に声かけやトイレ誘導を行う事で排泄の自立にむけた支援を行っている。また個々の状態に応じて、紙パンツ、布パンツの使用について話し合っている。	排泄チェック表を使い、一人ひとりの排泄リズムを確認し、個別に配慮しながら声かけ誘導を行っている。また、症状に合わせて排泄用具を選んだり、ポータブルトイレを使うなど自立に向けた支援が行われている。自然排便を促すため、牛乳・ヤクルトの提供や水分量チェック・運動等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトや牛乳などの提供、必要に応じ腸内環境を整える為、ヤクルトなどの提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日と木曜日が入浴日となっているが、入りたいとの希望があれば随時入浴出来るよう対応を行っている。	基本的に週2回の入浴になっているが、希望や必要に応じ随時入浴介助を行っている。同法人の小規模多機能の機械浴で入浴していた利用者5名は、現在新型コロナの影響で利用できなく、現在、男性職員が抱えて浴槽に入れるなどの苦心がある。また、入浴が楽しみになるようゆず湯や花を浮かべるなど季節感が味わえる工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度に活動を行い、日中、活動を行う事で、ゆっくりと休めるよう努めている。また眠れないと訴えがある方などは、温かい飲みものを飲んで頂いたり、不安な事を聞き、不安の軽減を図ったりなど、安心して休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員は、看護師から薬の内容や副作用の説明を受け、理解に努めている。また状況変化等あれば看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事や役割などを職員と共に出来る範囲で行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に帰りたくと希望される利用者さんに対しては、職員同行のもと自宅にて少しの間ではあるが、過ごしてもらっている。現在は、コロナの影響で出歩く事は少なくなっているが、気晴らしドライブなどは、定期的には行っている。	年間の全体外出行事計画が立てられ、季節に応じて出かけている。また、ユニットごとに月々の外出計画を立て、近くのおとぎの森や太閤山などへドライブするなど閉じこもりにならない支援に努めている。新型コロナの影響も考えながら、近隣への散歩も欠かさず、地域住民とあいさつを交わしたり会話を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持している利用者さんは、おられない。以前は、状態に応じて近所のお菓子屋さんへ財布を持ち買い物へ出かけていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻繁ではないが、絵手紙や年賀状など関係性が途切れないよう、努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙や周りの家具などは落ち着いた配色でまとめられてあり、利用者さんにとって不快感を抱くような刺激がないよう配慮を行っている。壁には季節に応じ、利用者さんと作成した作品を飾っている。	共有空間となるリビングは、全面ガラスの引き戸から光彩がそそぎ、とても明るい環境である。壁面には利用者手作りの作品やイベント開催時の写真などが掲示してあるが、華美にならない配慮がされており、落ち着いた雰囲気である。適所にソファが配置されゆったりと過ごせる共有スペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さんが、思い思いに過ごせるよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の配置や、家族の写真を飾るなど利用者さんが落ち着き、心地よく過ごせるよう配慮を行っている。	備え付けのベッドや収納タンス、テレビなどは、本人の思いや身体状況に合わせて配置され、過ごしやすい居室になっている。また、家族写真、米寿祝の賞状なども飾られ、なかにはお孫さんからのプレゼントで、本人の若い頃から現在までの写真を額一面にレイアウトされ、生涯の歴史が紐解かれる飾り物もあり、あたたかな雰囲気の居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態に合わせ、ベッド位置や手すりを配置するなどし安全に介助を受けながらも、出来る事は、自身で行えるよう配慮を行っている。		

2 目標達成計画

事業所名 ケアホーム橋下条テラス

作成日: 令和 2年 10月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		年数を重ねる度に、運営推進会議への家族の参加が、固定され負担が大きくなり、現在は積極的に参加を促す事はなくなって来ている。	全ての利用者さん家族が順番に参加し、橋下条テラスの活動状況などを知ってもらう。	運営推進会議の議事録や資料などを送付し、運営推進会議ではどのような事が話し合われているのかを知っていただく。	6ヶ月
2		施設内において災害訓練は全職員行っているが、施設内のみで、地域住民との連携は行えていない。	地域住民との連携が行え、災害時互いに協力出来るよう関係性を築いていく。	自治会の防災訓練に継続的に参加し、施設名を覚えてもらい地域との関係性が築けるよう努める。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。